

第3回 Tokyo Textile Scope 2027 Spring/Summer 開催報告



JFWO 主催の新生テキスタイル展、第3回 Tokyo Textile Scope 2027 Spring/Summer（略称：TTS）を、開催しました。これまでのジャパン・クリエーション、プレミアム・テキスタイル・ジャパンの良さを継続しながら、来場者に満足いただける展示会を目指してきました。

来場者が求めるものは、まずトレンドをキャッチアップすることです。2階入り口付近に「Trend & Index」を配置しました。また、好評の売れ筋を探る「What's Next Textile」を楽しみにしている方も多いようです。出展者の工夫を凝らした素材に対する評価も高いように思えました。同じく2階で開かれたのが「産地フォーカス」です。初回の三備のデニム、第2回の尾州ウールに続き、今回は和歌山ニットを対象にしました。産地内には糸、生地、染色などがあります。TTSではそういう産地をフォーカスし、グローバルな視点で発信します。海外のミラノウニカやプルミール・ヴィジョンのブースでも産地工場のVR（仮想現実）体験コーナーを設けました。リアルに面白く、楽しみながらモノ作りを波及できます。こうした産地紹介の取り組みも期待されています。

展示会は商談の場ではありますが、それだけではありません。来場者の目的もさまざまです。産地間連携、産学連携の創出も見受けられ、人的交流が進んでいます。会場では原燃料価格の高騰や量的不足を危惧する声があがりました。テキスタイル業界でも困難な時代が続いています。ひとつの展示会が世界情勢を変えることはできません。しかし、バイヤーだけでなく、将来中心となる人たちにさまざまなものを継承できる場にしていきたい。そうした新しい柱を築いていきたいと考えます。（JFWO 事務局長 古茂田博）

開催概要

- ◇ 日時：2026年4月15日（水）-17日（金） 10：00-18：00（最終日は16：00まで）
- ◇ 会場：東京都立産業貿易センター 浜松町館
- ◇ 後援：16団体

経済産業省 / 外務省 / 知的財産戦略本部 / 独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ） /
独立行政法人中小企業基盤整備機構 / 東京都 / 日本商工会議所 / 日本繊維産業連盟 /
日本化学繊維協会 / 一般財団法人日本ファッション協会 /
一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会 / 一般財団法人ファッション産業人材育成機構 /
一般社団法人日本百貨店協会 / 日本繊維輸出組合 / 日本繊維輸入組合 / 日本ジーンズ協議会

◇来場者：5,586 人

今回は4月開催ということで、カリキュラムとして学校側が学生をまとめて来場するケースは少なかったようです。また、オープングレセプションなどの夜間のイベントなどを開催した前年第1回TTSより来場者はやや減りましたが、開催が早まったことはビジネスチャンスとの期待の声も聞かれました。

●来場者の声 ～魅力的な生地がある～

「いろんな生地に触れられてよかった」（アパレル）という声もありました。とくに個人で起業した方には、「個人だとなかなか取引できない場合があるが、TTSは展示会の場。こういう機会は楽しみ」（アパレル）という意見もありました。商談が未来につながっていくケースもあります。「魅力的な生地もあるが、量に結び付かなければビジネスにはならない」（生地メーカー）という厳しい考えもあります。「見やすかった」という声が大半ですが、多様な来場者を満足させる工夫はこれからも必要でしょう。

◇出展者：社数／小間数： 86社／94小間

* 出展者リスト >>> <https://jfwtextile.com/TTS/ja/2027ss/exhibitors/list.php>

●新規出展：9（社/団体）

JFWO主催の国内展（JFW-JCおよびPTJ展）に出展履歴のない企業（以下8社、1団体）
IONO 水田株式会社、株式会社カツクラ、株式会社野澤組／煙台進和進出口有限公司、和歌山ニット工業組合、
エクスライト社、HEBEI XINDADONG TEXTILE CO., LTD. (China)、P.T. Tokai Texprint Indonesia (Indonesia)、
Suzhou Kirei Textile Import & Export Co., Ltd. (China)、SuZhou Yike Textile Co., Ltd. (China)

3階では京都のユメテックスが手洗い可能なシルクを展示していました。同社はミラノウニカにも参加していますが、「高密度は日本」という評価の一方で、「欧米も注文量が厳しくなっている」と、海外の変化も指摘しました。齋栄織物はシルクに見えないイリュージョンシルクの評価をみようとして出展しました。

明林繊維はこれまでジアセテート主体でしたが、今回はトリアセテート繊維を中心にしました。また、経に長繊維、緯に短繊維を用いた組み合わせも出品しています。ササキセルムは麻調合織などで清涼感を出し、表面感のある素材も出品しました。とくに表面感のあるサッカー素材（ポリエステル）やトリアセテートのパンツ素材などが好評です。畑岡／足羽工業所は「原点回帰」をテーマにしました。

サンウェルも麻調合織を訴求しています。「シワになりにくく、清涼感がある。洗濯しやすく、毛羽立ちしにくい」などの理由です。東レも「ウルトラスエード」「ナノデザイン」をアピールしました。「HATRA」（長見佳祐デザイナー）のシルクミライ使用の作品5体も展示しました。田村駒は綿ライクなポリエステルを出品しています。

海外勢も元気です。韓国のSFTはメンズのイージーパンツ素材を出しました。ストレッチ、吸水、防シワ性の機能があります。ノンアイロシャツも出品しました。自社工場はありませんが、韓国、ベトナム、中国の生産場を利用しています。中国のDALIAN EXE TRADEもメンズ・カジュアルが中心。Suzhou Kirei Textileは中国の高級婦人向けの生地会社ですが、これまで欧米向けが中心でした。昨年からは日本向けにも着手しました。

4階には溝呂木が出展しました。「4つのテーマごとに柄を提案」しましたが、「意匠管理が難しくなっている」ようです。タナベ刺繍／渡辺産業も刺繍・レース業者です。変わった刺繍や原反刺繍を提案しました。シャルマン工芸も刺繍・レースの新しい柄を作っています。

ウールの国島は出品点数を200点以上提案していましたが、「今回は50点にまとめた。来場者と会話するための処置」のようです。鈴憲毛織は麻などの交織を出品。春夏展ということで清涼感のあるものを出しました。

西脇産地の桑村繊維・短繊維は「フィルロワ」という糸を使いました。油分が多く、しっとりとした表面感があるコンパクトスピンです。小原屋繊維は麻のシャリ感を訴えました。オールブルーはウールやシルク100%のデニムを紹介。クロスジャパンは120センチ前後のサンプルを並べました。会場では石油問題も話題になりましたが、個別に自助努力をされており、値上げのほかに打つ手はないようです。



トレンド & インデックス コーナー

2027SS のトレンドコンセプトは “時の間” 多様性とみ、たがいを認め合い共存してゆくために、その間を取りながら前に進んで行く思いやりが必要な時代になりつつあります。今その間の取り方が必要な時。今回の施工プランのテーマは「間」。空間の“あいだ”、時と時や音と音の“すきま”など、そこに流れる気配や空気、時間を表現し、環境演出しました。



JFWO Textile トレンド▶

<https://www.jfwtextile.com/TextileView/ja/2027ss/index.html>

What's Next Textile

「What's Next Textile」は、次の売れ筋を探る人気素材投票コーナーです。出展者から応募を募り審査を通過した素材を会場に展示する、来場者参加型のこの企画は、今回で7回目の開催です。来場者も必ず立ち寄りここで見た生地を求めてブースを訪れるバイヤーも増えています。ビジネスの起点となる注目のコーナーです。

45社の選りすぐりの商品をご覧くださいました。今回の1位は、和歌山ニットで出展した「カネマサ莫大小（株）」の生地が選出されました。



1位：カネマサ莫大小（和歌山ニット工業組合）

「キュプラコットン 40G ダンボール」

キュプラ 39% コットン 34% ポリエステル 27%

カネマサ莫大小はキュプラフィラメントと高収縮ポリエステルの強撚糸を表使いした40Gのダンボールニットを出品しました。裏面にはスーパーコットンを使用しフィブリル加工でフィニッシュしています。

参考価格は1疋 = 4500円



今回出展した素材は、カネマサ莫大小特注のスーパーハイゲージ 40G ジャガード機を用いて編み立てた、超高密度ダンボールニットです。ハイゲージでありながら立体感と膨らみを持たせるため、構造設計と糸配置には特に時間をかけました。

商品開発のキーワードは「エレガントヴィンテージ」。あくまで“加工で作り込んだヴィンテージ”ではなく、素材そのものの品格を損なわないことを意識しています。ヴィンテージブームが一巡しつつある今、カネマサ莫大小が提案する次のトレンドは、仕立て映えるエレガントな高級感、そこに品良く重なる、色ムラや表面感といったヴィンテージテイストという、本来相反する要素を掛け合わせたモノづくりです。今後も、唯一性のある編み機・素材開発を軸に、加工や糸使いを含めた総合的な素材提案を通じて、「次に選ばれるテキスタイル」を継続的に発信していきたいと考えています。

(カネマサ莫大小 取締役 百間谷 浩平)

2位：滋賀麻工業

「リネンデニム」 リネン/ラミー100%

トレンドのデニムをリネン100%で表現するにあたって、産地内の特殊先染め、特殊加工でアタリ感を出しました。一般的なデニムと違ってリネンの風合いを感じられる柔らかい生地になっています。

参考価格は2400円。



開発の経緯としては、岡山県アパレル工業組合が主催されているジーンズソムリエ認定資格でした。取得後、岡山の児島の工場を訪問する機会があり、ジーンズ産業の勉強をさせていただきました。産業規模、技術など多くの刺激をいただいたと同時に訪問後、すぐに滋賀の麻織物の産地で応用できないか模索しました。上質なりネンの中太番手を使って、染工場、整理加工場にアドバイスをもらいながら、インディゴ染料は使わず、デニムのアタリ感を演出させるための染めと仕上げで上質なりネンのライトオンスのデニム生地が出来ました。くっつきと柔らかく、軽く、ずっと触っていたくなる春夏向けの生地です。今後も扱いやすいデニム生地の研究を続け、滋賀の麻織物の可能性を広げていきたいです。(滋賀麻工業 土田 樹生)

3位：東レ 「Ultrasuede」

ポリエステル80%ポリウレタン20%

チュールと豊かな質感や意匠性、高い機能性を兼ね備えたウルTRASUEDO nuをレイヤード。熱伝導を阻止するシートを使用しエッジを効かせたモチーフでレーザー加工を施し、刺繍をプラスして軽さを表現しています。



4位：中伝毛織 「CU/E/N モノフィラメント三重織」

ポリエステル 51% ナイロン 36% キュプラ 13%

近未来的な表情を表現したくて、ナイロンのモノフィラメントを使用した三重織り。

参考価格は1㎡ 4000円。



5位：KAJIF 「NY+和紙ストレッチタフタ」

ナイロン 64% ポリウレタン 14% 和紙 22%

細番手の和紙とナイロンを組み合わせた清涼感のある素材にストレッチを付与。

参考価格は1㎡ 1800円



産地フォーカス第三弾「和歌山ニット」

マネの出来ないモノ作りをVR(仮想現実)疑似体験

日本テキスタイル唯一無二のクオリティは、日本各地の地域特色を生かして独自に継承・発展してきた繊維産地の形成が基盤です。TTSでは、こうした産地の魅力を取り上げていきます。第一弾は、世界からも注目される日本の「デニム」、第二弾は尾州の「ウール」に焦点を当てました。

この企画は、ミラノウニカ、プルミエール・ヴィジョンでもレビューを行い、海外のバイヤーからも高い評価を受けました。TTSとしてはこの企画をシリーズ化し、幅広くプロモーションすることで、日本のものづくりの魅力を世界に発信し、日本のテキスタイルの普及を促進することを目的としています。



江戸時代、紀州徳川家の庇護のもと生まれた木綿の技は、足袋づくりへと受け継がれ、やがて和歌山のニット産業へと姿を変えていきました。近代和歌山ニットの始まりは、1900年代初頭に導入されたわずか5台のスイス製丸編み機。第二次世界大戦時、空襲からの戦禍をくぐり抜け古い機械が残ったことで、新旧の技術が共存する世界有数のニット産地へと発展します。起毛加工を応用した綿メリヤスの需要が高まり、和歌山は丸編みニット生地生産で全国トップに。昭和には合織ジャージが登場し、東京オリンピックで日本選手が着用したことで、その名は世界へ広がり時代が変わっても、「和歌山ニット」は挑戦を続けます。

不安定な世界情勢・不透明な市場環境が続きますが、ミラノ冬季オリンピックが開催され、スポーツやアウトドアブランドの市場が好調です。時流に沿った「和歌山ニット」のモノ作りは、世界のラグジュアリーブランドからも注目されています。今回の撮影では、ドローンによる美しい産地風景・迫力ある工場現場の映像に加え、生産現場からクリエイターがそれぞれの「ものづくり」への想いを語ります。和歌山ニット産地からは10社が、TTSに出展し、産地の生産現場を体感したあとは、各社の展示ブースで生地をご覧くださいました。



和歌山ニット工業組合の山下智広理事長は「産地には2代目、3代目が登場し、若さがある。世代交代ができていく感じがする」と見ている。「産地はこれまで引きこもり気味の時期もありました。それでもチャレンジしようという気持ちがあり、産地フォーカスに選ばれたタイミングもよかった」。引きこもれば受注生産はできます。しかし、各産地の悩みである提案型・発信型への脱却は望めません。ニット産地企業の集まったブースエリアでは、待つだけではなく、出展企業を回る「ミニツアー」開催も提案しました。実物だけでなくVRも交えた発信。「今後は若手デザイナーも育てたい」という産地の抱負もありました。



Photo:和歌山ニット生産工場

<出展企業>

和歌山ニット工業組合

株式会社エイガールズ / 株式会社オカザキニット / 風神莫大小株式会社 / カネマサ莫大小株式会社/
 有限会社紀南莫大小工場 / 阪和株式会社 / フジポウテキスタイル株式会社 / 丸和ニット株式会社/
 美和繊維工業株式会社 / 吉田染工株式会社

<撮影協力企業> *上記出展企業に加えて

株式会社ヤマヨージャージ (ニッター) / 豊染工株式会社 (染色後加工) / 有限会社オランジェ (縫製) /
 エーベル鈴木 (縫製)

JFWO FABRIC CONNECTION

“出会い”を“協業”へ ファブリックコネクションが生み出す新たな価値創出

デザイナーとテキスタイル企業をつなぐマッチングプログラム「JFW FABRIC CONNECTION（ファブリック コネクション）」の第2回目を開催いたしました。本プログラムは、ファッションデザイナーの創造性と、テキスタイル企業が持つ高度な技術力を結びつけることで、新たな協業機会と価値創出を促進する取り組みです。

第1回目の開催(2025年11月TTS展)では、以下のような成果が確認されました。

- ・ 事前情報共有によるコミュニケーションの円滑化
- ・ JFWOの関与によるブランド信頼性の補完
- ・ ニーズに応じたマッチングによる素材探索の効率化
- ・ 従来接点のなかった企業・素材との新たな出会いの創出

こうした成果を踏まえ、本プログラムは単発的なマッチングに留まらず、TTS 2026 AW / 2027 SS を通じた「年間サポート型プログラム」へと拡張。12ブランドに対し、累計92件の企業紹介を実施いたしました。

第2回目となる今回は、継続的なマッチング支援を通じて、ブランドと企業双方の中長期的な関係構築と、継続的な取引機会の創出を目指しました。



今後は、本プログラムのさらなる認知拡大を図るとともに、実際に生まれた協業事例や成果を可視化し、広く発信してまいります。また、デザイナー側のみならず、テキスタイル企業側のニーズや課題についてもヒアリングを行い、双方にとってより有意義な協業機会の創出を推進していきます。

What's Next セミナー開催

2階に開設するイベントスペースでは、3日間多彩なセミナーを開きました。ファッション&テキスタイルのこれからを展望し、旬な話題を取り上げ解説しました。

●和歌山の今とこれから

「Scope on WAKAYAMA Knit」は15日に産地企業、16日にクリエイティブディレクターとテキスタイルデザイナーという組み合わせで、和歌山ニット産地の今とこれからの論じました。モデレーターは宮浦晋哉氏（糸編代表取締役）です。前半の15日は和歌山ニット産地の企業5社がパネリストとして自社の特徴を述べました。

16日はクリエイティブディレクターとデザイナーの共創がテーマになりました。SHINYA KOZUKA クリエイティブディレクターは「和歌山産地に期待するところは、何でも作れるということ。裏毛も釣りも和歌山にある。もっと海外にニットを打ち出してほしい」と語りました。また、「特色のある産地がいい。強いところをブラッシュアップしていく。産地に行くことでインスピレーションを超えることもある」と話しました。テキスタイルデザイナーはあまり日の目を見ない仕事。背景にある会社によって評価の異なることもある。会社としてのブランディング次第という面もあり、ブランド力が未来を変えていくこともあると、テキスタイルデザイナーは述べていました。失敗を恐れずに練習をするかのように進むことも大事でしょう。無理難題をクリエイティブディレクターに言われることも、結果的にイノベーションにつながるかもしれません。



●待ったなしのDPP

「デジタルプロダクトパスポート（DPP）最前線：テキスタイル業界が今知るべきサステナビリティ制度と未来戦略」

講師：第1部：山下 大貴 氏（経済産業省 生活製品課 課長補佐）

第2部：堀野 哲生 氏（東レ株式会社 繊維事業企画推進室長）

欧州市場ではDPP（デジタル製品パスポート）が話題になっています。絶対的な入場パスポートともいわれ、EU域内で販売する限りDPP準拠は必要です。単なる規制コスト対応ではなく、グローバル市場で生き残る戦略的インフラ投資になっていきます。従来はサイズや原産国、洗濯絵表示などが衣料に付されていましたが、DPPではカーボンフットプリントなどの環境負荷情報、化学処理などの製造履歴、リサイクル率などの循環性情報も必要になります。2027年のルール改定を待ってからでは、対応が遅いと思われる。走りながら考えましょう。

《Tokyo Textile Scope 実施スケジュール》

第4回 Tokyo Textile Scope

日時：2026年10月14日(水)-16日(金) <2027AW展>

場所：東京都立産業貿易センター 浜松町館 全館(2F,3F,4F,5F) (東京都港区海岸 1-7-1)

※出展募集：2026年4月~5月20日

出展募集要項▶ <https://jfwtextile.com/TTS/ja/2027aw/application/index.html>

第5回 Tokyo Textile Scope

日時：2027年4月14日(水)-16日(金) <2028SS展>

場所：東京都立産業貿易センター 浜松町館 全館(2F,3F,4F,5F) (東京都港区海岸 1-7-1)

※出展募集：2026年11月-12月

第6回 Tokyo Textile Scope

日時：2027年10月13日(水)-15日(金) <2028AW展>

場所：東京都立産業貿易センター 浜松町館 全館(2F,3F,4F,5F) (東京都港区海岸 1-7-1)

※出展募集：2027年4月-5月

お問い合わせ先：

一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構 (JFWO)

テキスタイル事業事務局

Tel:03-6805-0791 info@japancreation.com

<https://www.jfwtextile.com>